1. 令和7年1月～3月期の景気動向

今期のDI平均値は△50．4ポイント。小売業は2ポイント上がったが、建設業・製造業は6ポイント、卸売業は34ポイント、サービス業は38ポイント下がった。前期の10～12月の△34ポイントから16．4ポイントマイナスとなった。

業種／項目	建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月
	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高	△ 38 (△ 31)	△ 50 (△ 75)	△ 34 (△ 44)	△ 46 (△ 38)	△ 67 (△ 67)	△ 11 (△ 33)	△ 19 (△ 35)	△ 23 (△ 24)	△ 61 (△ 33)	△ 28 (△ 39)
採算	△ 44 (△ 56)	△ 56 (△ 63)	△ 37 (△ 45)	△ 43 (△ 49)	△ 56 (△ 22)	△ 22 (△ 11)	△ 40 (△ 42)	△ 40 (△ 28)	△ 61 (△ 24)	△ 50 (△ 24)
資金繰り	△ 19 (△ 19)	△ 31 (△ 31)	△ 33 (△ 35)	△ 23 (△ 26)	△ 33 (0)	△ 44 (△ 11)	△ 27 (△ 40)	△ 31 (△ 34)	△ 41 (△ 12)	△ 35 (△ 19)
業況	△ 44 (△ 38)	△ 50 (△ 64)	△ 45 (△ 39)	△ 45 (△ 42)	△ 56 (△ 22)	△ 56 (0)	△ 40 (△ 42)	△ 44 (△ 28)	△ 67 (△ 29)	△ 50 (△ 25)
経営上の当面する問題点 1位	官公需要の停滞		需要の停滞		仕入単価の上昇		需要の停滞		需要の停滞	
経営上の当面する問題点 2位	材料価格の上昇		原材料価格の上昇		需要の停滞		仕入単価の上昇		利用者ニーズの変化への対応	
経営上の当面する問題点 3位	民間需要の停滞		熟練技術者の確保難		金利負担の増加		人件費以外の経費の増加		材料等仕入単価の上昇	
業種別コメント	建設業はDI値が△44ポイントと前回調査から6ポイント悪化した。「官公需要の停滞」「民間需要の停滞」の長期化により、売上高は伸び悩んでいる。「材料価格の上昇」は依然継続してはいるが、工事価格への価格転嫁が進んでおり、採算は12ポイント改善した。来期は官公・民間需要の停滞が懸念され、全項目で厳しい状況が予想される。		製造業はDI値が△45ポイントと前回調査から6ポイント悪化した。売上高・採算・資金繰りでは改善が見られたものの、「需要の停滞」「原材料価格の上昇」は継続している。深刻な経営問題として「熟練技術者の確保難」が上げられる。来期は、資金繰りは改善の兆しが見られるものの、コスト増加分の価格転嫁が進まず採算や売上高は、依然として厳しい状況が予想される。		卸売業はDI値が△56ポイントと前回調査から34ポイント、大幅な悪化となった。「需要の停滞」により売上高が横ばいであるものの、「仕入単価の上昇」により採算が大幅に悪化している。更に「金利負担の増加」により、資金繰りも悪化傾向となっている。来期は、資金繰り面において厳しい状況が予想されるが、仕入れコスト増加分の価格転嫁が進み、売上高・採算の好転が期待される。		小売業はDI値が△40ポイントと前回調査から2ポイント改善された。「仕入単価の上昇」や「人件費以外の経費の増加」の販売価格への転嫁が進んでいることに加え、季節需要もあり、売上高・採算・資金繰りについても改善が見られた。しかしながら来期については度重なる物価上昇により消費者の購買意欲低下が懸念され、厳しい状況が予想される。		サービス業はDI値が△67ポイントと前回調査から38ポイント、大幅な悪化となった。「材料等仕入単価の上昇」に加え、物価上昇による「需要の停滞」の長期化により、価格転嫁が進まず、資金繰りが悪化する深刻な状況となっている。来期は季節需要により売上高は大幅な改善が見込まれ、採算・資金繰り・業況も好転が期待される。	



とくに好調（50≦DI）　好調（25≦DI<50）　まあまあ（0≦DI<25）　不振（△25≦DI<0）　きわめて不振（DI<△25）

※当所では分析にあたってD･I（好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値）を採用しました。

※（ ）は前回調査時のD･I値